

PALTEK

(証券コード:7587)

**2016年12月期 第3四半期
決算説明資料**

2016.11.7 (月)

FY2016 Q3 Results Reporting

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

アジェンダ

- ① 2016年12月期 第3四半期
業績結果**
- ② 2016年12月期 業績予想**
- ③ 事業の進捗状況**

1

2016年12月期 第3四半期 業績結果



連結業績結果(第3四半期累計期間)

(百万円)	2015年第3四半期		2016年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	20,642	100.0%	24,944	100.0%	4,301	20.8%
売上総利益	3,081	14.9%	2,318	9.3%	△763	△24.8%
販管費	2,114	10.2%	2,311	9.3%	197	9.3%
営業利益	967	4.7%	6	0.0%	△961	△99.3%
経常利益	819	4.0%	35	0.1%	△783	△95.6%
四半期純利益	507	2.5%	△15	△0.1%	△523	—
1株当たり四半期純利益	45.89円	—	△1.43円	—	△47.32円	

主な増減要因

- 売上高の増加は、半導体事業の増加による
- 売上総利益の減少は、ドル円相場が急速に円高に進行したため、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が減少したことなどによる
- 販管費の増加は、主に人員の増加による
- 四半期純利益は、税率変更の影響により繰延税金資産の取り崩しが発生したこと等によりマイナス

(百万円)	2015年第3四半期		2016年第3四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	19,507	94.5%	23,587	94.6%	4,079	20.9%
デ ザ イ ン ス サ ー ビ ス	1,016	4.9%	1,252	5.0%	235	23.2%
そ の 他	119	0.6%	104	0.4%	△14	△12.3%
売 上 高 合 計	20,642	100.0%	24,944	100.0%	4,301	20.8%

主な増減要因

- 半導体事業の増加は、メモリ製品が海外メーカーに大幅に増加したこと、およびFPGAが新規顧客向けに増加したことによる

■ 売上総利益率の低下は、以下の2つが要因

- ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減が、2015年第3四半期では+385百万円であったが、2016年第3四半期では△808百万円となった

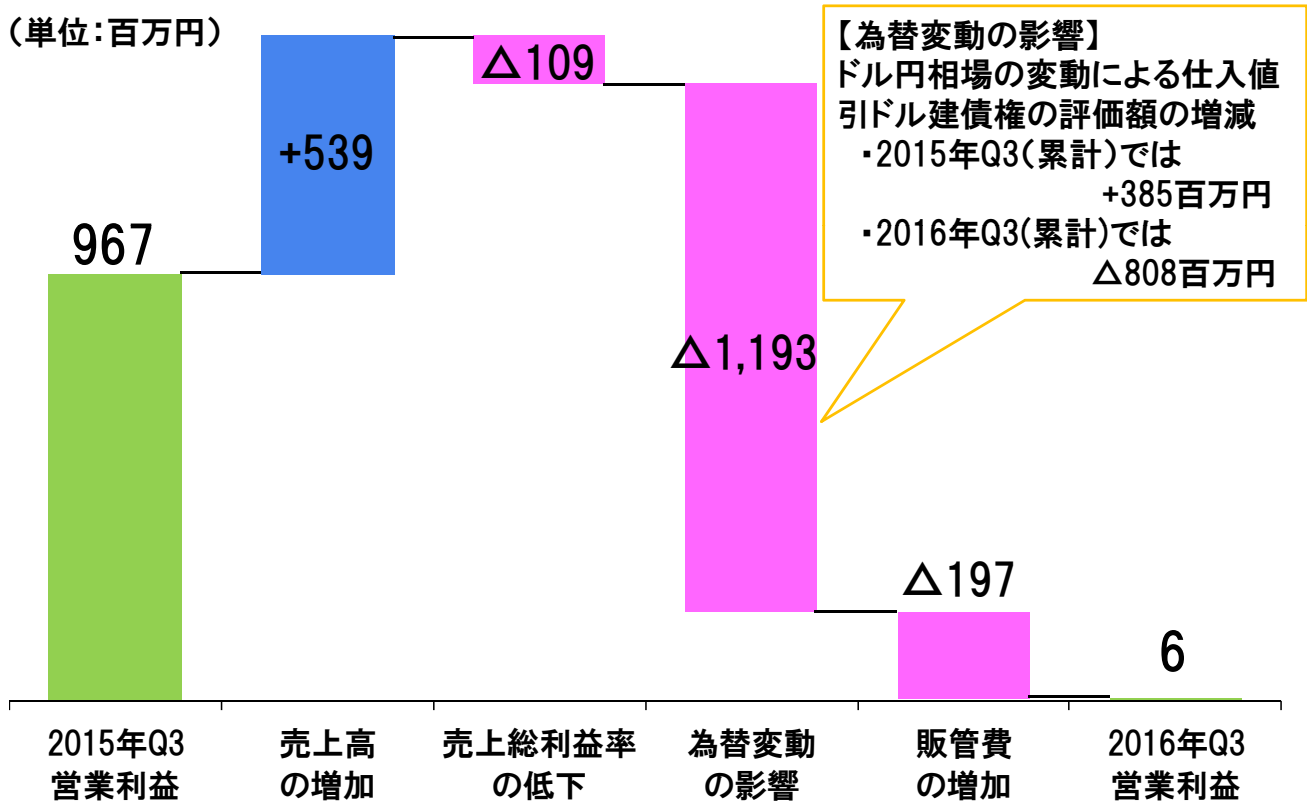
(※仕入値引ドル建債権の説明は、本資料の参考資料に記載)

(百万円)	2015年第3四半期		2016年第3四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	3,081	14.9%	2,318	9.3%
(うち為替の影響額)	385	1.9%	△808	△3.2%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	2,697	13.1%	3,126	12.5%

- 半導体事業において、売上総利益率が非常に低い民生機器向けの案件の売上高が大幅に増加

営業利益の増減分析

(単位:百万円)



【為替変動の影響】
 ドル円相場の変動による仕入値引ドル建債権の評価額の増減
 ・2015年Q3(累計)では +385百万円
 ・2016年Q3(累計)では △808百万円

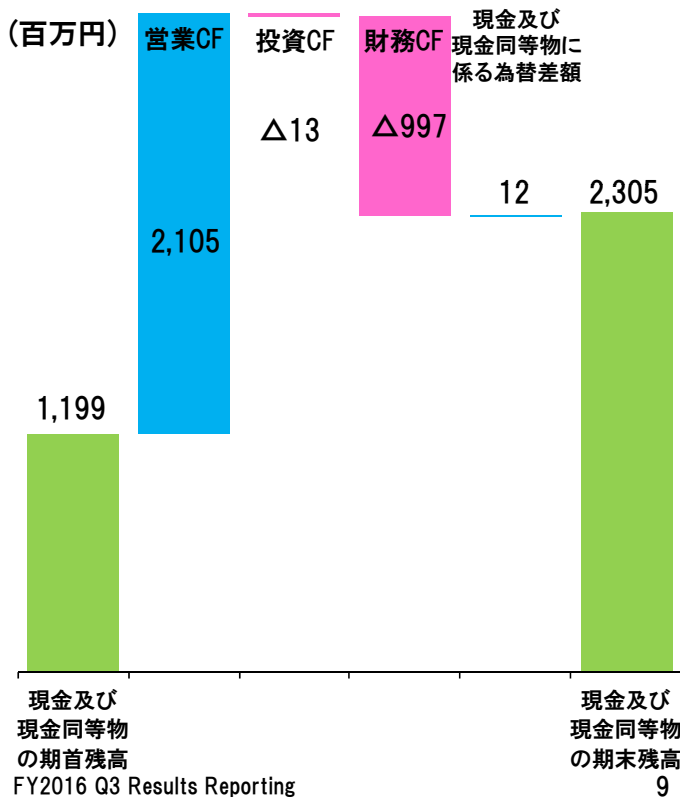
連結貸借対照表の状況

		(百万円)	2015.12末	2016.9末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金		1,199	2305	1,106	
	売上債権		7,367	5,847	△1,520	売上高減少に伴い、売上債権の回収が進む
	商品		3,918	3,430	△487	
	その他流動資産		2,988	2,691	△296	
	固定資産		504	468	△36	
資産合計			15,977	14,743	△1,234	
負債純資産内訳	仕入債務		1,047	1,113	66	
	短期借入金		4,130	3,320	△810	売上債権の回収が進んだため返済
	その他流動負債		1,468	1,158	△309	
	固定負債		283	270	△13	
	純資産		9,048	8,881	△167	
負債・純資産合計			15,977	14,743	△1,234	



連結キャッシュ・フローの状況(第3四半期累計期間)

2016年第3四半期のキャッシュフローの動き



(百万円)	2015年 第3四半期	2016年 第3四半期
現金及び現金同等物の期首残高	2,058	1,199
営業CF	△3,967	2,105
投資CF	△33	△13
財務CF	3,853	△997
現金及び現金同等物の期末残高	1,912	2,305

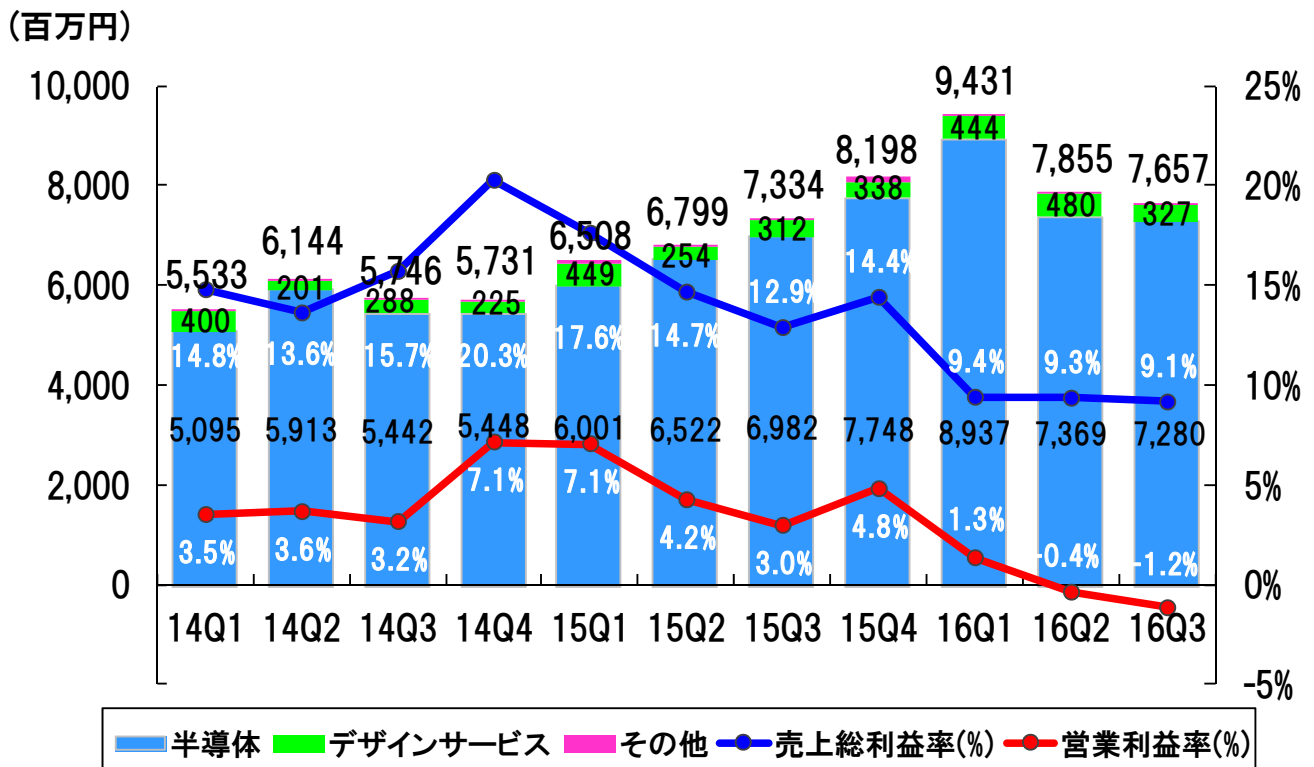
2016年第3四半期のキャッシュフローの動き

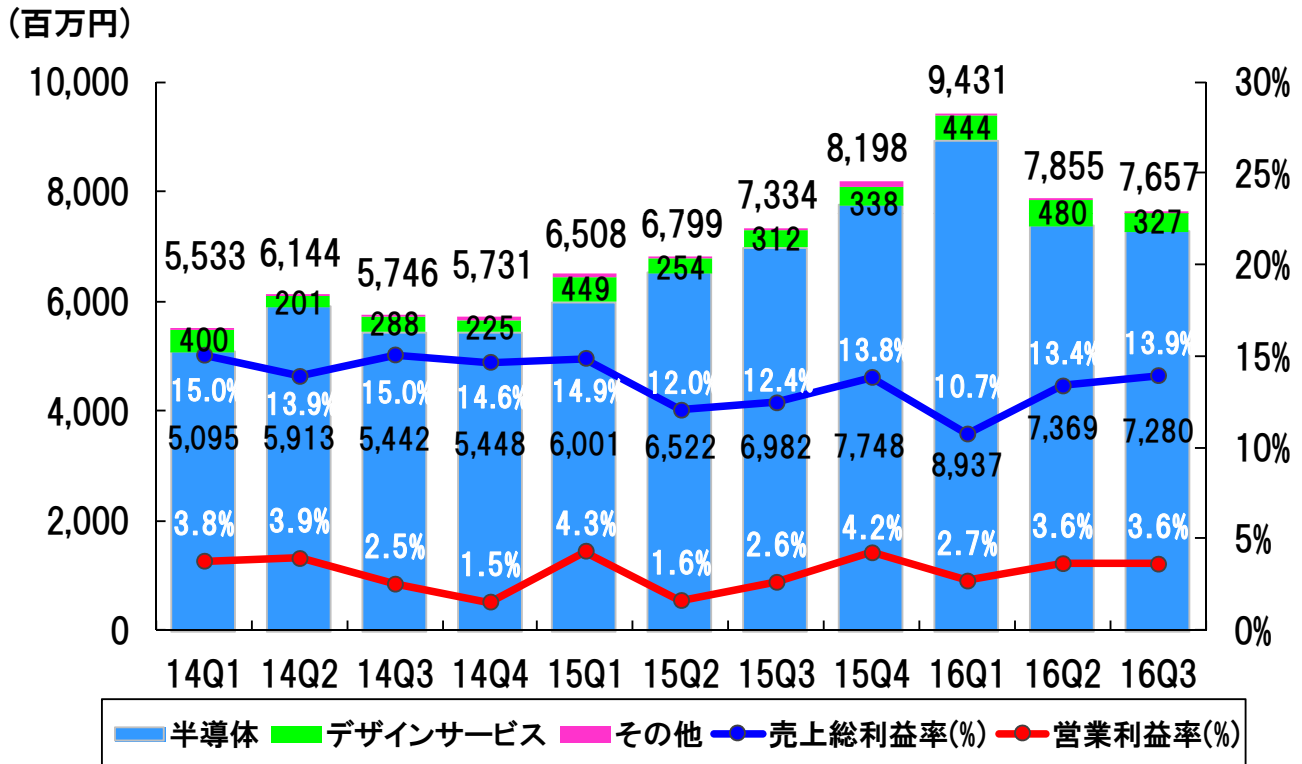
- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権およびたな卸資産が減少したこと等により収入
- 投資CF: 有形固定資産および無形固定資産を取得したこと等により支出
- 財務CF: 借入金の返済および配当金の支払等により支出

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.



連結業績の四半期推移

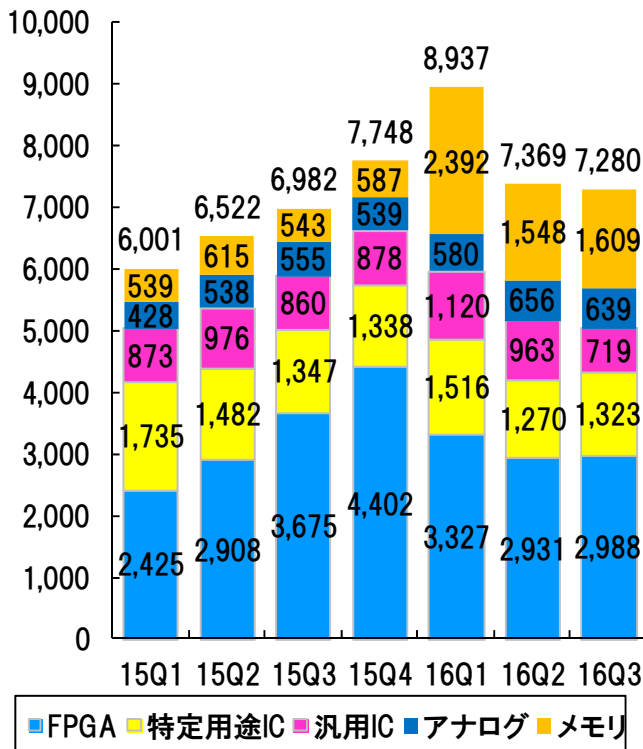




事業別の実績

半導体事業の状況（製品別）

(百万円)

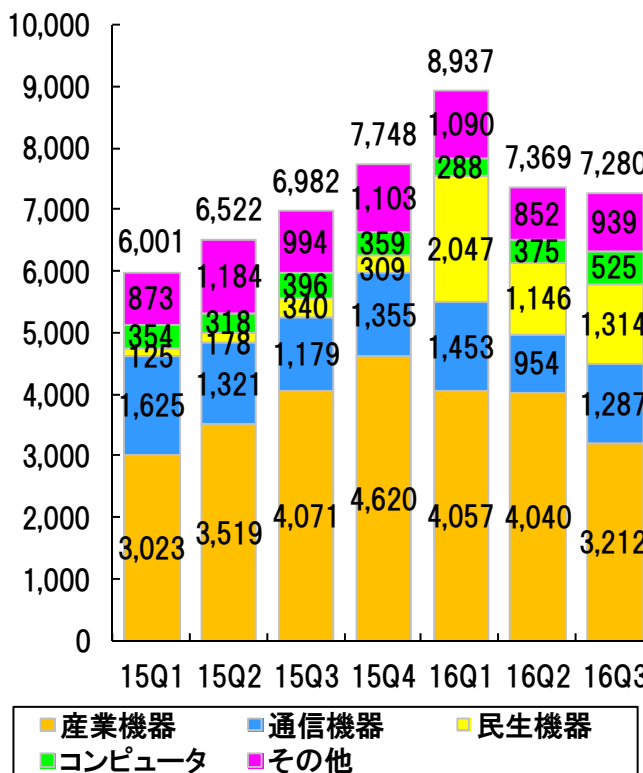


四半期業績の推移

- FPGA**
計測機器向けが減少するも、通信機器向けが増加
- 特定用途IC**
ブロードバンド通信機器向けが増加
- 汎用IC**
オフィス機器向け等が減少
- アナログ**
産業機器向け等が減少
- メモリ**
海外メーカー向け等が増加

半導体事業の状況（用途別）

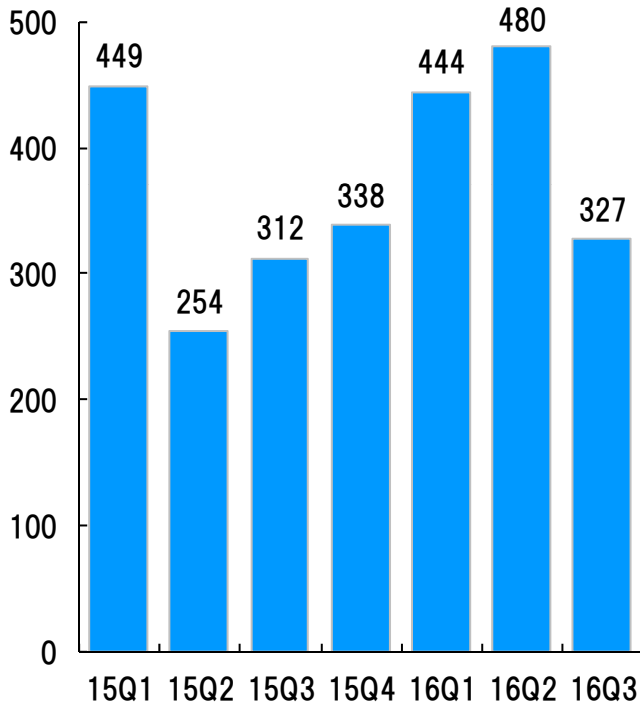
(百万円)



四半期業績の推移

- 産業機器**
オフィス機器、計測機器等が減少
- 通信機器**
基地局およびブロードバンド通信機器向けが増加
- 民生機器**
海外メーカー向けが増加

(百万円)



四半期業績の推移

- 医療機器向けのODM案件が減少
- お客様(3月決算会社)の予算との連動性が高いため、通常であれば第2四半期の売上高が減少し、その後増加していく傾向にあるが、16Q2はODM案件が堅調であった

2

2016年12月期 業績予想

業績予想は、8月3日発表数字から変更なし

■ 売上高について

- メモリ製品の売上高が堅調に推移しているため、業績予想から変更なし

■ 営業利益について

- 【売上総利益】急速な円高進行により、仕入値引ドル建債権の評価額の減少等の為替変動の影響が、Q3までに△808百万円発生。
直近では若干円安に進行したため、今後の同評価額のマイナス影響が軽減される見通し
- 【販管費】人員の増加により前期よりも増加
- 【営業利益】売上総利益率は低下するものの、売上高の増加により、業績予想通りに推移する見込み

FY20

(百万円)	2015年12月期 実績			2016年12月期業績予想 修正予想(8/3)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	13,308	15,533	28,841	17,286	15,713	33,000	4,158	14.4%
売上総利益	2,141	2,120	4,261	1,618	1,951	3,570	△691	△16.2%
売上総利益率	16.1%	13.6%	14.8%	9.4%	12.4%	10.8%	—	—
販管費	1,394	1,506	2,900	1,521	1,718	3,240	339	11.7%
営業利益	747	613	1,361	96	233	330	△1,031	△75.8%
営業利益率	5.6%	4.0%	4.7%	0.6%	1.5%	1.0%	—	—
経常利益	713	431	1,144	116	183	300	△844	△73.8%
当期純利益	454	220	674	51	123	175	△499	△74.1%

- 2016年8月3日に発表した業績予想においては、為替レートを1ドル当たり102.96円として発表
- 年初からの急速な円高進行により、仕入値引ドル建債権の評価額の減少等が発生し、売上原価を押し上げ、利益が減少

【為替変動による影響見込額】

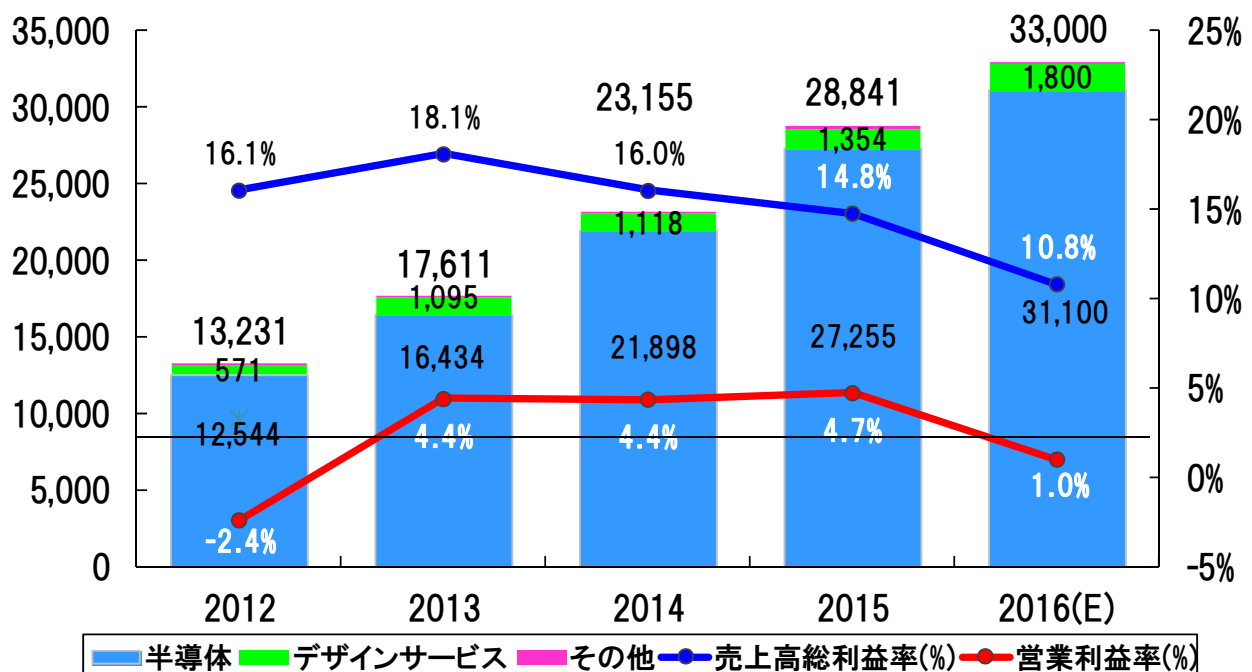
第3四半期(累計):△808百万円 が発生

第4四半期において、現時点では為替変動による影響が若干マイナスになると程度と見込む

(算出のために使用した為替レート:104.82円)

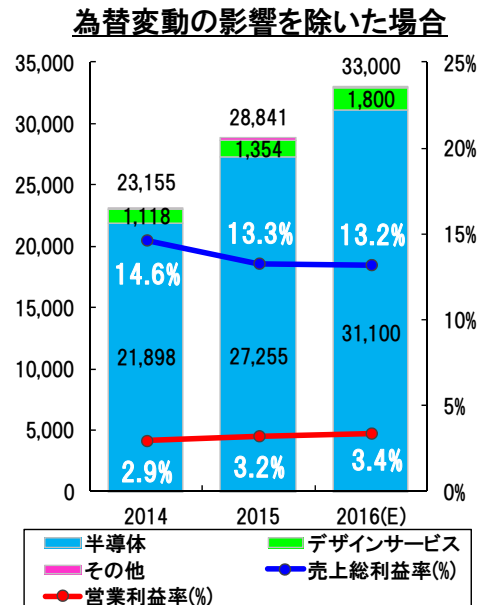
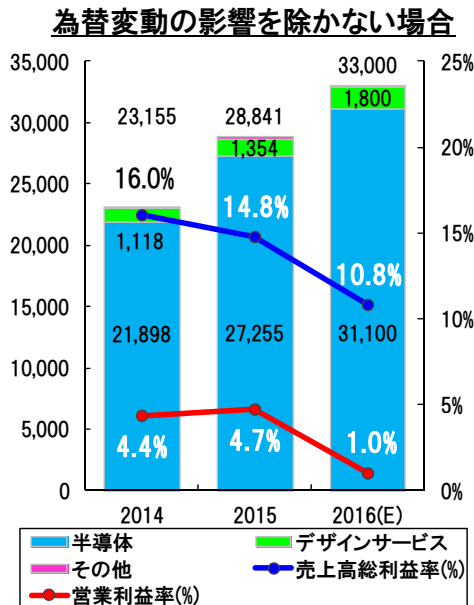
今後の為替変動が不透明なため、現時点では通期における為替変動による影響額は、8月3日発表の△785百万円から変更しない

(単位:百万円)



為替変動の影響を除いた業績予想比較

- 2014年、2015年では、円安進行により仕入値引ドル建債権の評価額が増加し、原価を押し下げたが、2016年では同評価額が減少し、原価を押し上げている
- この評価額の増減を含む為替変動の利益に与える影響を排除した場合、2016年12月期については実力値ベースでは増益となる



為替変動の影響を除いた業績推移(営業利益)

- 為替レートの変動による仕入値引ドル建債権の評価額の増減等の影響を除いた場合、実力値ベースでの営業利益は増加傾向

(百万円)	2014年12月期 実績		2015年12月期 実績		2016年12月期 予想	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率
売上高	23,155	100.0%	28,841	100.0%	33,000	100.0%
営業利益	1,008	4.4%	1,361	4.7%	330	1.0%
為替変動 による影響	+327	1.4%	+431	1.5%	△785	△2.4%
営業利益 (為替変動による 影響を排除)	681	2.9%	929	3.2%	1,115	3.4%

3

事業の進捗状況

半導体事業について

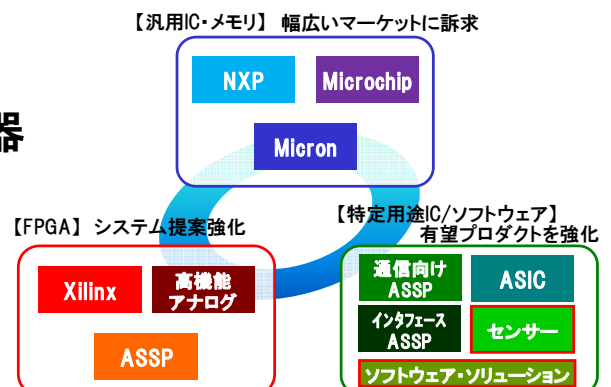
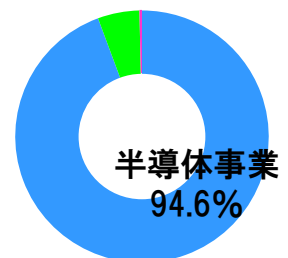
■ 事業の方向性

- 安定的に収益を確保する事業を目指す

■ 戦略

- FPGA市場の拡大
- IoT市場への新たな取り組み
- 成長市場への注力：
産業機器、医療機器、
通信機器、放送機器、車載機器
- デマンド・クリエーションの強化
- 付加価値高い製品の
開発と開拓

2016年12月期第3四半期
(累計)売上構成比



■ FPGA市場の拡大



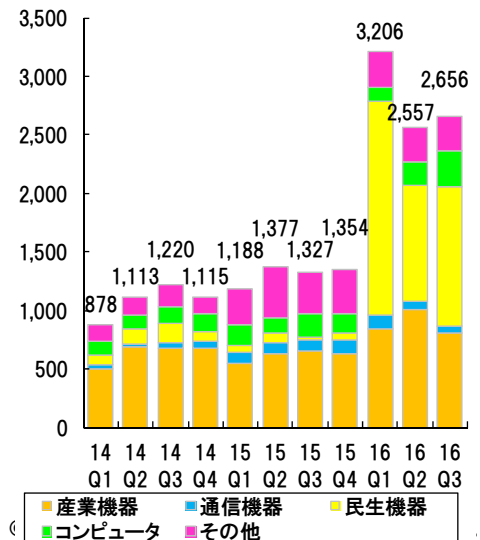
- 既存顧客の新規プロジェクト獲得活動の強化
- 新規中小顧客の拡大、パートナーとの連携強化

■ FPGAに次ぐ第2の柱となる製品の拡大

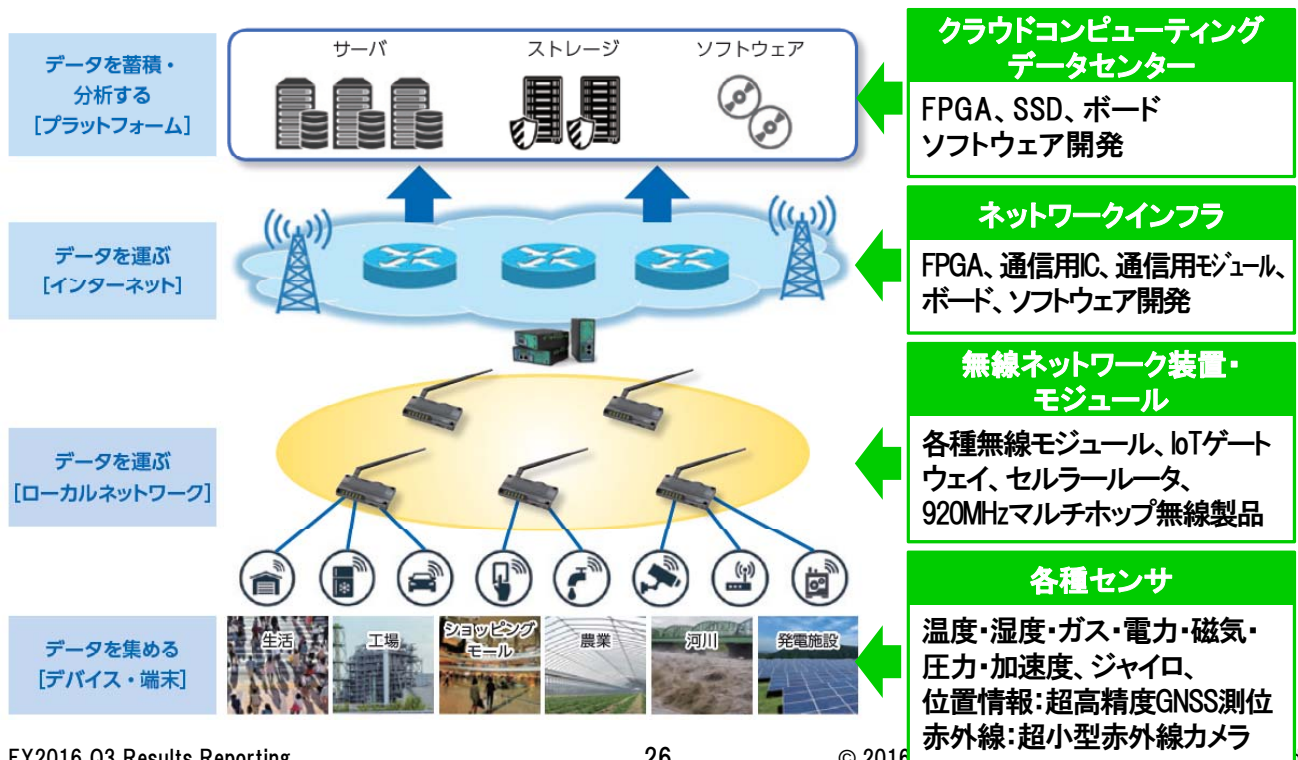
- 市場変動により増減する民生機器向けが大幅に増加



第2の柱となる主要4製品の売上推移



IoTインフラ向けに端末からデータセンターまで製品ラインを拡充



■ 「SORACOM パートナースペース 認定済デバイスパートナー」として認定



- 産業用途のIoTプラットフォームにおいて連携を強化
- ソラコムの提供するIoT向けの通信プラットフォーム「SORACOM」を活用することで、リーズナブルに、セキュアに、プログラマブルにシステム構築が可能

■ 「ITpro EXPO 2016/IoT Japan 2016」にソラコムブースで共同出展 (開催日:2016年10月19日～10月21日)

- 展示内容: センサデータをIoTゲートウェイを介し、「SORACOM」を用い、クラウドサーバへデータ送信



FY20 展示会の様子

展示内容



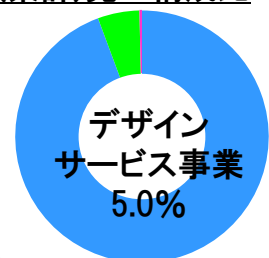
■ 事業の方向性

- 日本メーカーが得意とする医療、放送等の産業分野、通信分野の開発をサポートし、付加価値の高い製品・サービスを提供

■ 戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- 開発環境販売・サポート (ツール、評価ボードの販売等)

2016年12月期第3四半期
(累計)売上構成比

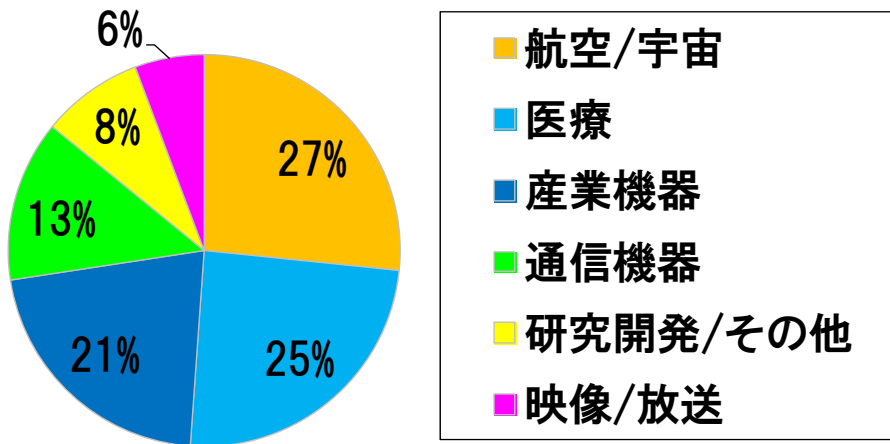


ODM(Original Design Manufacturing):

発注元企業のブランドで販売される製品を設計するだけでなく、製造も行うこと

- 航空/宇宙分野、医療機器、監視カメラやファクトリーオートメーション等の産業機器、通信機器向けとバランスよく事業展開
- ODM/EMSの比率は約50%

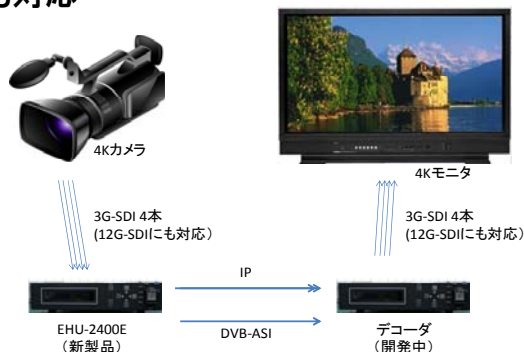
2016年第3四半期(累計)での用途別売上構成



- 最新映像圧縮技術H.265/HEVCに対応したエンコーダ装置を開発
 - 「次世代映像である4Kに対応した装置」と「現在幅広く使われている2K(フルHD)に対応した装置」の2機種を開発
 - 2017年1月より受注を開始し、2017年4月より出荷開始予定

H.265/HEVC 4K対応エンコーダ装置

今後の4K映像の普及にともない求められる映像伝送インターフェースの高速化にも対応



H.265/HEVC 2K対応エンコーダ装置

現在広く普及している2K(フルHD)の画質を落とさずに従来の半分のレートで伝送できるため、多くの分野での活用に期待



■ 2016年国際放送機器展(Inter BEE 2016)に出展

- 開催日 : 2016年11月16日(水)~11月18日(金)
- 場所 : 幕張メッセ (ブース:ICT/クロスメディア部門 /ホール8 /8405)

■ 主な展示品目

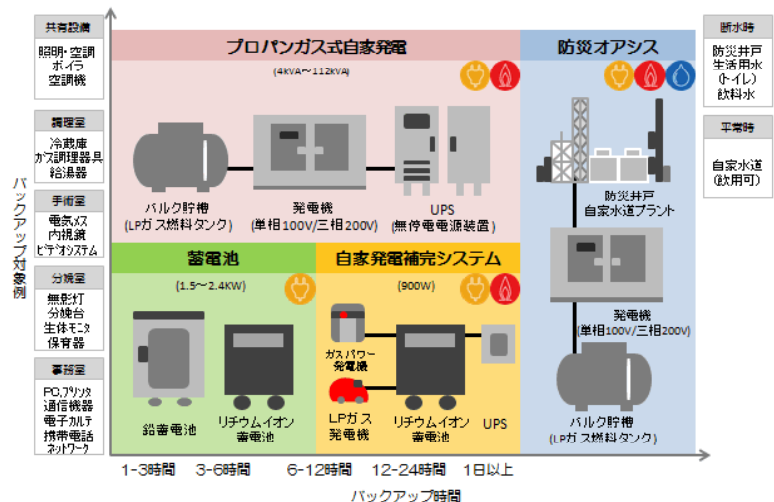
- **H.265/HEVC 2K(フルHD)対応エンコーダ装置**
 - H.264の2倍の高圧縮伝送を実現し、より低い伝送レートでの安定した高精細映像の伝送を実現
- **H.265/HEVC 4K対応エンコーダ装置**
 - H.265/HEVCの高い圧縮効率を活かした、4K(3840x2160)映像の伝送を実現
- **GearBoxボードソリューション**
 - GearBoxボードは、4K/60pの高精細映像の非圧縮伝送を実現するために必要な12G-SDIに対応する評価ボード
 - メイコム社のSDI製品により12G-SDIでの映像伝送を実現し、ザイリンクス社のFPGAにより12G-SDI 1本から3G-SDI 4本への変換、3G-SDI 4本から12G-SDI 1本への変換など様々なSDI伝送レートの変換などを行うことが可能

■ 事業の方向性

- スマートエネルギーソリューションの開拓・販売を通じて、エネルギー面からの持続可能な社会構築に貢献する

■ 戦略

- 長時間(72時間以上)提供可能な病院向け停電対策システムの構築および販売
- ニーズに基づいた新製品ソリューションの構築



■ すずひろクリニック様（埼玉県）

【内科・リウマチ科・アレルギー科・皮膚科】

● 導入の背景

- 東日本大震災後の計画停電を経験し、停電時にも薬用保冷庫内のワクチンを守る必要があることを痛感。電力バックアップの必要性を感じていた
- 今春、熊本で発生した大地震での医療機関等の被災状況から、すぐに停電対策を導入することを決定

● 導入結果

- リースを活用して発電機を購入し、発電機は屋上、プロパンガスシリンダーは地上に設置
- 停電時にも、薬用保冷庫3台と待合室・受付の照明、診察室の電子カルテ等の電力を3日(72時間)以上確保することが可能となった



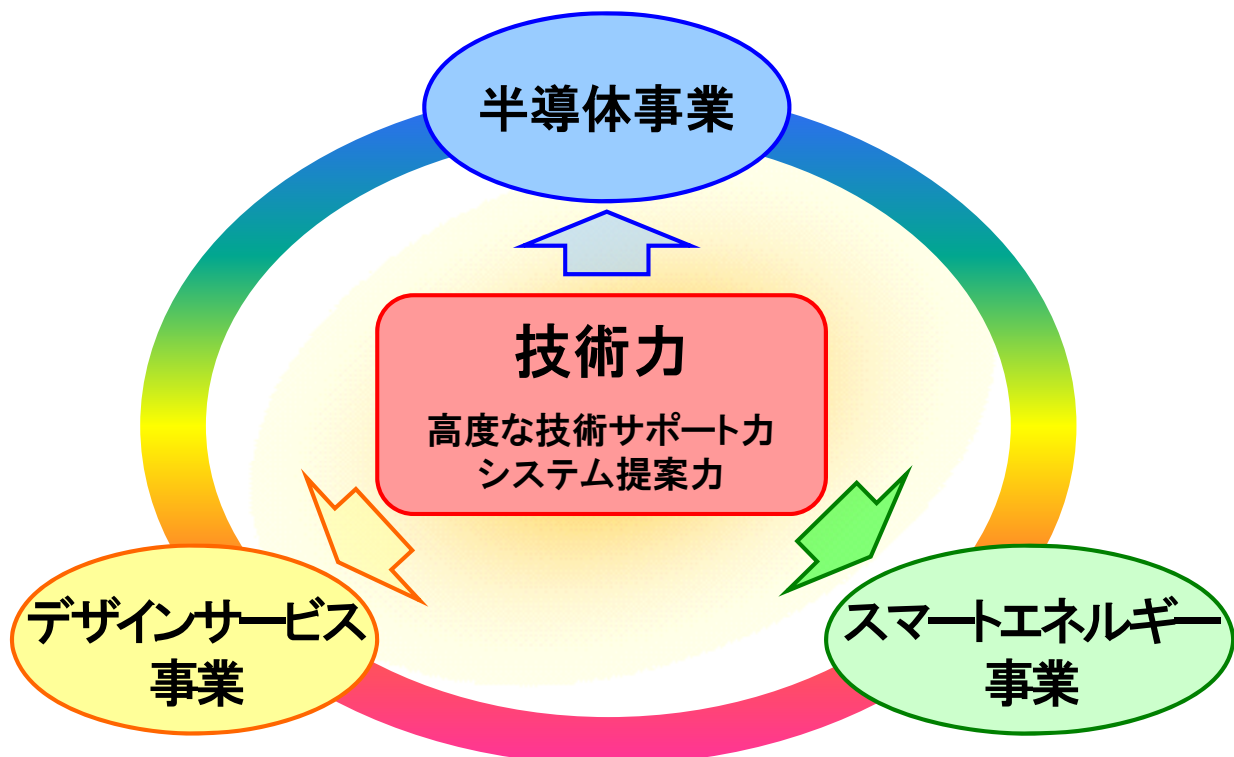
屋上設置発電機



LPガスシリンダー

FY2016 Q3 Results Repor

n. All rights reserved.



参 考 資 料



2016年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2015年12月期 実績			2016年12月期業績予想 修正予想(8/3)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	12,524	14,730	27,255	16,307	14,792	31,100	3,844	14.1%
FPGA	5,334	8,078	13,412	6,259	7,140	13,400	△12	△0.1%
特定用途IC	3,217	2,686	5,904	2,786	2,513	5,300	△604	△10.2%
汎用IC	1,850	1,739	3,590	2,083	1,616	3,700	110	3.1%
アナログ	966	1,095	2,061	1,236	1,463	2,700	638	31.0%
メモリ	1,155	1,131	2,286	3,940	2,059	6,000	3,713	162.4%
デザインサービス	704	650	1,354	924	875	1,800	445	32.9%
その他	79	152	231	54	45	100	△131	△56.9%
売上高合計	13,308	15,533	28,841	17,286	15,713	33,000	4,158	14.4%
営業利益	747	613	1,361	96	233	330	△1,031	△75.8%

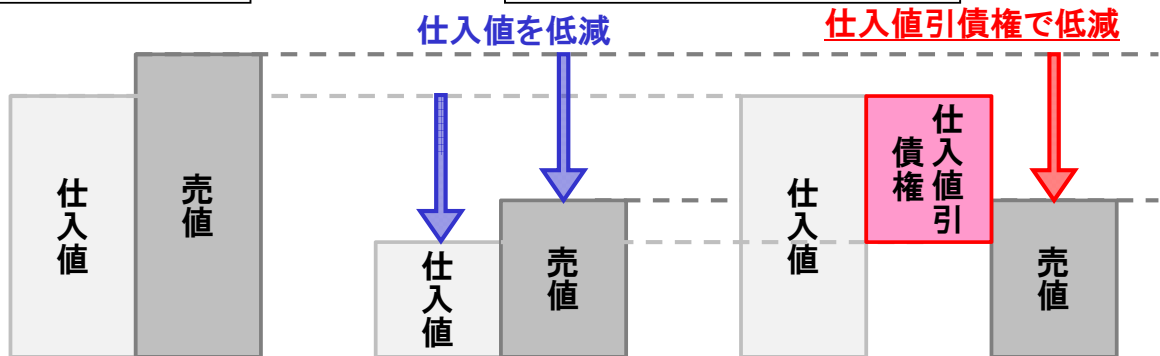
為替変動による影響の発生要因①

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
 - 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
 - その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
 - その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」

通常価格で取引

量産案件では値引価格で取引



FY2016 Q3 Results Reporting

37

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

急速な円高進行による仕入値引債権の評価額減少

- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きく生じるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化

① 値決め時 (1\$ = 110円)

仕入価格 (10\$ = 1,100円)	仕入値引 (ドル建債権) (6\$ = 660円)
	売上原価 (4\$ = 440円)

円高進行

② 販売時(1\$ = 100円)

仕入値引 (6\$ = 600円)
売上原価 (500円)

売上原価増加
利益率減少

△60円

FY2016 Q3 Results Reporting

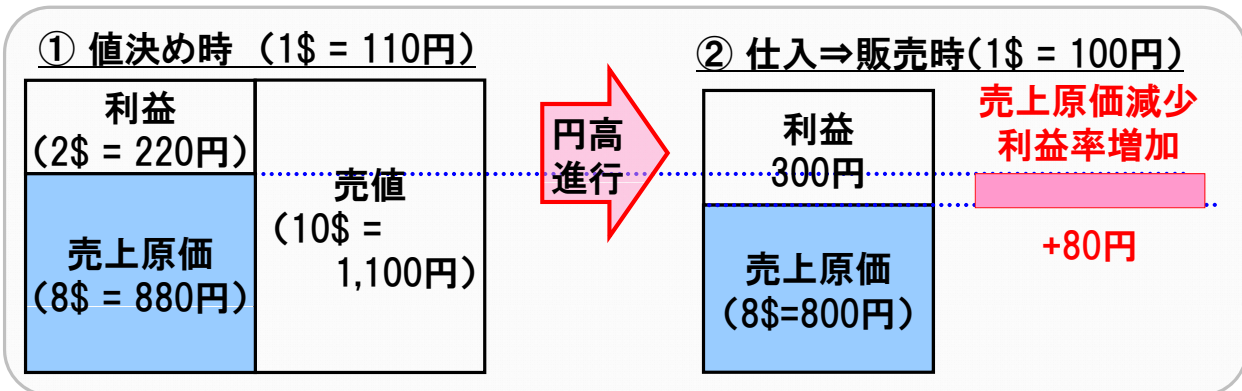
38

© 2016 PALTEK Corporation. All rights reserved.

【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



- 「仕入値引ドル建債権の為替変動による影響」と「調達在庫の為替変動による影響」は相殺関係
- 当社のビジネスにおいては、「仕入値引ドル建債権の為替変動による影響」のほうがビジネスボリュームが大きいいため、急速な円高進行は当社業績にマイナスの影響となる
- 為替レートが1円円高に進行すると、売上総利益に対して、月に約10百万円のマイナスの影響が生じる

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合



以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp